



「不要」だからと段ボールで保健所に持ち込まれた子猫
Unwanted kittens brought into hokense to be killed

由がない限り、他の方法への移行は難しいかもしれないですね……」そう心の葛藤を話してくれました。

ある東北地方の里親ボランティアさんから聞いた話です。その方の知り合いに、動物の大好きな男性がいました。その方は元は、市役所勤務の公務員でした。ある年、その人に、犬猫を引き取り処分する、動物管理センターへの異動が命じられます。そこで働き始めてしばらくして、その男性はノイローゼになり、入院生活を送ることになりました。そして社会復帰できないまま、ついには奥さんとも離婚してしまったそうです。

中国地方のとある保健所の所長さんが、こんな話しをしてくれました。所長さんは現在50代。「僕は若い頃から動物行政に携わってきました。20代の頃は主に、現場に出て野犬を捕獲する仕事をしていました。それを見た人からは「犬殺し!」と石を投げられ、家族にさえ、自分のしている仕事の内容を隠していました。でも、これからの動物行政をしょって立つ僕の後輩たちには、そんな思いをさせたくない。自分の仕事に誇りを持って働ける職場を残して、ここを去りたいと思っているんです。だからこそ、収容された動物たちの里親探しにも力を入れていきたい。そうすれば職員も家族に、『お父さんは、動物たちの命を助ける仕事をしているんだよ』と胸を張って言える。殺す仕事から、救う仕事に、変えていきたいんです」

そんな風に語ってくれましたが、現実にはなかなか厳しく、収容する場所や予算

の問題に、頭を悩ませておられるようでした。

東北のある施設では、地元の民間動物愛護団体と連携して、収容された成犬の里親探しに積極的に取り組んでいました。私が訪問した日も、1頭の成犬が譲渡されていきました。その施設では、飼い主によって犬が持ち込まれた時点で、「雑種・5歳・中型犬」…など、その犬の特徴が記されたFAXを、愛護団体の元へ届けます。愛護団体の方では、「里親希望者リスト」を作成しており、条件に合う里親がいれば、即座に仲介します。里親募集の方法として

は、インターネット（ホームページ）とポスターと情報誌への掲載。ポスターには、里親を募集している子たちの写真が掲載され、県内数数百カ所の所定の場所に貼られ、月に一度のペースで最新情報と張り替えられます。スーパーの掲示板、動物病院の壁など、様々な場所に貼られているため、「いつも見ていて、気に入った子が出たら里親になろうと思っていたんです」と電話してきてくれる人もいるというから、この里親システム、地域にもずいぶん浸透しているようです。また、すぐに里親が見つからない場合は、預かりボランティアさんの家庭で、里親が現れるのを待ちます。町には協力獣医がいて、特別価格で治療や不妊手術をしてくれます。

また、この施設では、子犬の持ち込みがほとんどないので驚きました。所長さんに聞くと、「ここ何年にもわたって、不妊去勢手術の重要性を啓発したことで、戸外での放し飼いをやめるように指導を徹底したことが功を奏したようです。以前は放し飼いになっていた犬が、よその犬とかかって子犬ができるケースが多かったのですが、それが減ったんです。子犬が持ち込まれれば、まずは子犬の里親を探すことになるし、里親希望者の方も、みな最初は『子犬がいい』と言う。でも、子犬がいなくなると、『それなら成犬でも…』となるんです。だからこそ、今の

ような成犬の譲渡が可能になったんですよ」。

その施設での処分は、ガス室ではなく、麻酔注射によって行われています。しかし、動物病院で行われるような静脈への麻酔投与ではなく、筋肉への麻酔注射ですので、ガス室と同じく痙攣やもがきなどの症状が出る場合があるといえます。動物病院レベルの安楽死をするのは人手とコストの問題で難しいとのことでした。そしてその所長さんは、こう言っておられました。「信頼している飼い主の腕の中に抱かれ、安らかな気持ちで静脈へ麻酔を注入していく……その方法以外は、「安楽死」と呼ばないでほしい」と。

全国には、ただ持ち込まれた動物を処分することのみに終始している施設がある一方で、動物の命を救うための前向きな取り組みをしている施設があります。不妊去勢手術の徹底、犬のしつけに対する正しい知識の広がり、里親制度の積極的導入、処分方法の改善（人手と予算を増やし、より安楽な方法に移行する）など様々な課題が具現化され、命を「捨てない、殺さない市民」と「救うための施設」が増えることを願ってやみません。

児玉小枝



麻袋に詰め込まれ、ガス室で処分される子猫
Kittens/cats stuffed into burlap bags in the hokense gas chamber